

## 課題共有型円卓会議「今だから語ろう「自治の理想と現実」」 第3回目報告

日 時：令和3年7月4日（日）14時～16時30分

参加者：約40名

第3回目は、話題提供者である田中一雄さん（元群馬県庁）から、自治体学会発足の経過やこれまでの変遷について話題提供がありました。「『職場を離れても集まれる、幅広い人たちが集まれる場の設立』をめざし、1884年に政策研究交流会議の始まり、1986年に自治体学会設立総会につながった。設立当時の1243人の会員は、1990年代に最大約2000人となった。自治体職員、研究者、市民、NPOなど幅広いメンバー、また、設立当初より団体会員も存在することが特徴である。その後、団塊の世代の退職、全体としての公務員数の減少、また、新たなネットワーク組織の発足などもあり、会員数は減少傾向である。これまで、自治体職員から研究者になる人材の輩出などもあったが、今は大学院卒、大学院への社会人入学など、自治体職員の高学歴化が進んでいる。」とのお話がありました。その上で、日本学術会議の推薦会員任命拒否問題は、「自治の直接的な問題でなかったことから反応が様々であったのではないか。円卓会議での意見とともに、有志の会の声明について等の会員の活動や声について、報告書等において自治体学会内で共有がなされればと思う。」とのことでした。

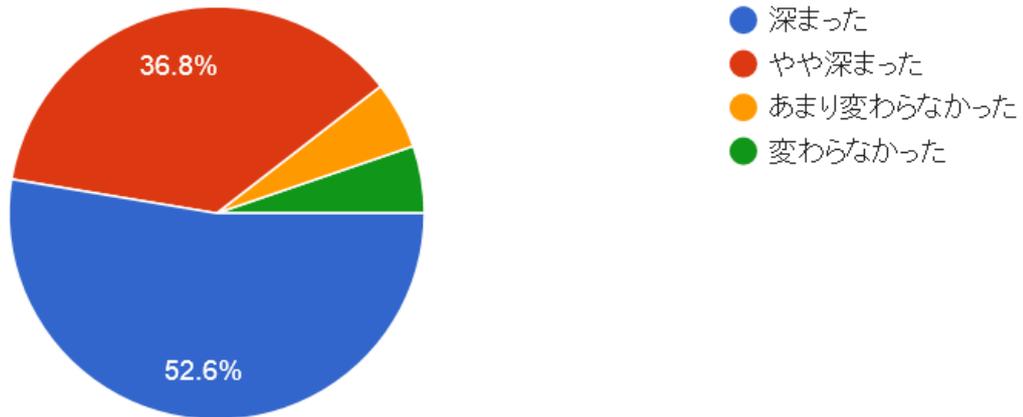
その後、スピーカーからの話題提供として、田中逸郎さん（元豊中市役所）、荒木和美さん（寝屋川市役所）、矢島真知子さん（元横須賀市議会）、今井照さん（地方自治総合研究所）、それぞれからお話をいただきました。

その後、ZOOMの「ブレイクアウトルーム」の機能を使い、参加者が4人一組になり意見交換を行いました。

円卓会議終了後、参加者へのアンケート（任意）の結果は以下のとおりです。

アンケート結果（抜粋）

Q 2) 本日の「えんたく」に参加されて、テーマについて理解は深まりましたか？  
(19 件の回答)



Q 3) 本日の「えんたく」に参加されて、テーマにたいする共感（自分にかかわることとしての感覚、自分ゴト感）は高まりましたか？  
(19 件の回答)

